

つづやき



「私、アスペルガーですが、何か？」

埼玉高等学校教職員組合 志磨 かおる

発達障害と思われる生徒が増えてきたように思います。あまりにも普通が求められる世の中になったからかもしれません。早くに気づき、生きづらさを軽減できるような方法が身につけられたらと思います。

かつてアスペルガーを自認する生徒がいました。入学時に「私はアスペルガーという特性をもっています」と言われびっくりしました。マイナスとは全く思っていないことに驚いたのです。小学生の時、人間関係にトラブルがあり、学校から紹介された市の教育相談室に行ったそうです。そこで勧められた教室に通い、周りの人との関わり方について学習したとのこと。トラブルの原因の多くは正義感が強く、すぐに糾弾してしまうことです。保護者は「正義感をもつことは素晴らしい。自分の感じ方は大切にしたいのだ」「(あなたがまわりと違うのではなく)周りがあなたと違う感じ方をすることがある」と自己肯定感をもたせる素晴らしい対応をしていました。クラスでは「私は臨機応変が苦手です。よろしくお願いします」と自己紹介をし、自分には許せない

ことにもぐっと我慢する姿も見られました。自分に自信をもって得意な分野に一生懸命取り組み成績優秀、学校代表として参加した大会などで何度も優秀な成績を修めました。まわりの友人からも一目置かれ、愛される存在でした。進学先でもいきいきと活躍しているようです。

発達障害を持つ人は能力的に優れた部分を持っている場合が多いと聞きます。それを生かせないばかりか、迷惑がられ生きづらさを感じている人もいます。本人だけでなく教員を含む周りの人間が「障がいではなく個性」と認識し、トラブルを回避できるよう学ぶことは大切だと実感しています。どんな障がいでも不具合を補う道具や解決する方法があれば、単なる特性・個性と誰でもが思えるはずですから。

